

このページは読み上げ機能に一部対応していない場合があります。  
ご不明な点につきましては、直接学校までお問い合わせください。

## 令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

千葉県八千代市		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
八千代市立米本小学校	八千代市教育委員会	公立

### 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
八千代市立米本小学校	<a href="https://www.yachiyo.ed.jp/eyonamoto/gaiyo/hyouka/">https://www.yachiyo.ed.jp/eyonamoto/gaiyo/hyouka/</a>	

### 2. 特別の教育課程の内容

#### (1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～2学年において、「言語活動科」を行う。

※ 国語科から10時間、生活科から10時間、音楽科から14時間（2学年は15時間）を言語活動科として充てる。

#### (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

児童がこれから生きる社会を見据えた時、高いコミュニケーション能力や異文化理解能力が求められる。このような状況を踏まえると、「言語活動科（英語）」を第1学年から実施し、コミュニケーション能力や異文化理解能力を高めていくことが求められていると捉えている。そのことへの保護者の関心も高い。これまでも、さまざまな学校行事や児童の安全指導等において地域と連携して活動を行ってきたが特別の教育課程を編成して教育を実施するにあたり、その連携を広げ、学習支援活動として地域住民から言語活動科（英語）を支援するボランティアを募っていく等、学習支援活動をはじめとして、校内の環境整備や児童の安全確保、学校行事の運営支援等、学校と家庭、地域が一体となって地域ぐるみで児童を育てる体制をより一層考えていく。

また、本市はアメリカ合衆国タイラー市と姉妹都市であり、タイ国バンコク都とは子ども親善大使を相互派遣している。地域として、各学校の特色を生かしながら、言語活動（英語）の充実を図ることは、児童の能力を高め、地域連携の充実をつながり、成果の広がりが期待できる。

(3) 特例の適用開始日

平成25年4月1日

平成30年4月1日変更

(4) 取組の期間

令和4年3月31日まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

学校ホームページ「米小タイムズ」のコーナーで言語活動科の学習の様子を紹介している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

いつも夢を持ち続け、未来を切り拓く力のある子どもを育てたい。また、本校には外国籍児童、外国語をルーツとする児童の割合が在籍児童全体の22%を占めている。日本語で表現することに不慣れな児童も多く、自ずと高いコミュニケーション能力や異文化理解能力が求められる環境にある。そのために、言語活動科の学習を通してコミュニケーション能力や異文化理解能力を高めていくこと、「話をよく聞き、自ら考え、正しく判断して行動できるよう指導を継続していくことで、本校の教育目標「自己教育力をもつ実践人の育成」につながる教育活動が行える。

## (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

教育基本法第2条に示された教育の目的の第5項「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」につながる教育活動が行える。

学校教育法第21条に示された普通教育の目標の第3項「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」につながる教育活動が行える。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

1・2学年の児童は、言語活動科の学習に意欲的に取り組んでおり、「あいさつ、ゲーム、歌などでは先生やALTの発音を真似て、一緒に声を出すのを楽しみながら取り組む様子が見られる。そこで、発音への意識を高め、発音パターンの知識を身に付けられるようフォニックスで学ぶことで、学習を進めることが効果的だと考えられる。

また、児童の「振り返りシート」を活用して、教材研究や授業の工夫・改善を進めていく。外国語主任及び担任とALTとの打ち合わせの時間を確保していく。